

| | |
|---------------------------------|----|
| 地域連携推進室主催事業 | 8 |
| 徳島大学パイロット事業支援プログラム(社会貢献)採択事業 | 12 |
| ICTふるさと元気再生 | 22 |
| 平成22年度 徳島大学地域連携公開事業(事業の概要と成果報告) | 24 |
| 地域連携推進事業 | 27 |
| 平成22年度 徳島大学地域創生センター活動報告 | 30 |
| 地域交流の拠点「ガレリア新蔵」 | 31 |
| 第10回 とくしまNPOフォーラム開催事業 | 32 |
| 徳島大学における地域連携事業一覧 | 33 |
| 報道記事に見る徳島大学の地域貢献事業 | 35 |



平成22年度 徳島大学那賀町タウンミーティング(第7回) 地域資源としての食を活かした地域再生 —ご当地グルメと地域づくり—

開催主旨

徳島大学と那賀町で協働している徳島大学地域再生塾では、地域で慣れ親しまれてきた「かきまぜ」をテーマに、地域ブランド化プロジェクトをすすめています。タウンミーティングでは、地域で慣れ親しんできた食べ物が「グルメ」として、地域づくりの起爆剤、地域経済へ波及するためのコツなどを考えます。



那賀町キャラクター
なかの ゆず



能登井



プログラム(敬称略)

日時: 平成23年2月27日(日)

14時~16時35分

場所: 相生ふるさと交流館

主催: 徳島大学、徳島地域連携協議会

共催: 那賀町

後援: 徳島県、徳島県市長会、徳島県町村会、
(社)徳島新聞社、四国放送(株)、
NHK徳島放送局

開会挨拶:

徳島大学地域連携推進室長
山中 英生
那賀町長 坂口 博文

基調講演:

「地域の食・食文化を一杯の井に・・・能登井」
奥能登広域圏事務組合 野中 淳也

話題提供:

- ご当地食材を使った地域おこし
“たねとはっば。” 後藤ひろみ
- 徳島大学地域再生塾「かきまぜ」
プロジェクト
徳島大学 真田 純子
- ゆず料理グランプリ
那賀町役場 藤長 歩

パネルディスカッション:

「ご当地グルメから地域づくりへ」

進行役:

山中英生
(徳島大学地域連携推進室長・
大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
教授)

パネリスト:

野中 淳也 (奥能登広域圏事務組合)
後藤ひろみ (“たねとはっば。”)
藤長 歩 (那賀町役場企画情報課)
真田 純子
(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス
研究部助教)
高石 喜久
(地域連携推進室企画推進員、
地域再生塾長、薬学部長)

吉田 敦也

(地域連携推進室企画推進員、
大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
教授)

会場展示:

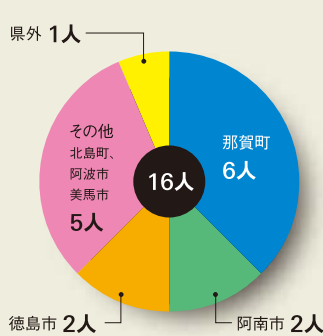
能登井、大麦、かきまぜ、地域再生塾の活動報
告、ゆず等のパネルや資料を展示

概要

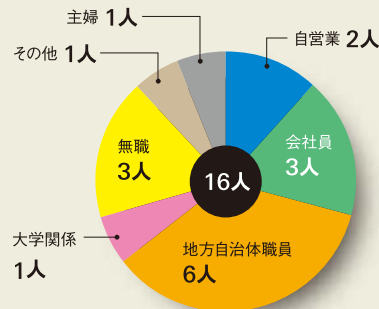
第7回タウンミーティングは、那賀町で開催されました。基調講演では、石川県の奥能登広域圏事務組合 野中淳也氏による「地域の食・食文化を一杯の井に・・・能登井」と題する講演があり、能登井ができるまでの経緯や能登井による地域づくりについて講演をしていただきました。続いて、話題提供として①福井県から大麦を使った地域づくりで活躍されている“たねとはっば。”代表の後藤ひろみ氏、②徳島大学地域再生塾のゆず酢を使った「かきまぜ」プロジェクトを那賀町で実践している工学部の真田純子助教、③ゆず料理グランプリを計画、開催し「ゆず」の話題を呼んだ那賀町役場の藤長 歩氏から、新しい地域再生についての講演をしていただきました。講演後「ご当地グルメと地域づくり」をテーマに、「食」を活かした地域再生についてパネルディスカッションを行い、参加者からも活発な意見が述べられました。休憩時間には、「かきまぜ」(ゆず酢を使ったちらし寿司)の試食があり、また会場には、能登井や大麦、ゆずを使った料理の資料などを展示し、参加者は熱心に閲覧していました。

【回答者数】16名

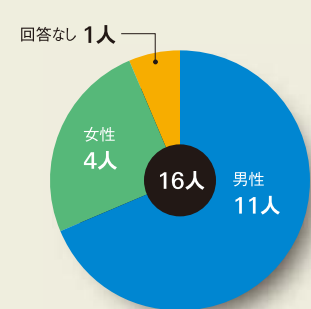
貴方の住所(居住地)をお答え下さい。



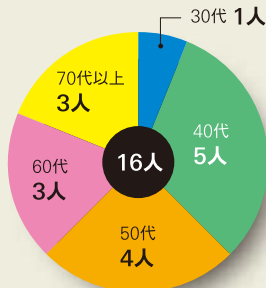
貴方の職業をお答え下さい。



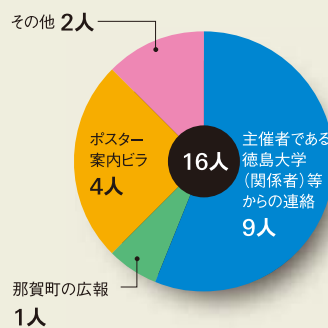
性別をお答え下さい。



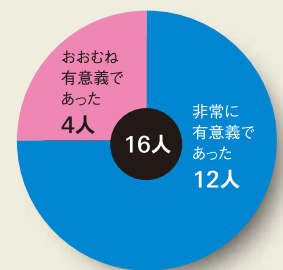
貴方の年齢をお答え下さい。



このタウンミーティングの開催をどのようにお知りになりましたか



タウンミーティングの内容は有意義なものでしたか



タウンミーティングの内容で関心を持たれた点をお書き下さい。

- 各地域の取り組み努力に頭が下がります。
- 能登井の取り組みが非常に参考になりました。
- 能登井、六条大麦の推進をされている方の発送を参考にしたいと思いました。
- やはり人のつながり(出会いの広がり)が大切！現場に足を運ばなければ・・・
- いかに地域の食材を売るか。
- 公民どちらの方法でもとりくんでいる事で共にPRに重点を置かれていた。
- ユズ酢、かきまぜのバリエーションを多く聞き、少しずつ試作してみようと思います。
- ゆず料理
- 後藤さんの立上げ方は参考になると思います。
- 地域が元気になるため、地域の特色あるものをどうやって活かしていくかということに関してヒントを得ることができました。
- 地域再生に果たす人、仕組、情熱を感じることができた。有意義であった。

タウンミーティングあるいは徳島大学に対して、要望やご意見があればお書き下さい。

- 引き続き支援を期待します。
- 今後一層地域再生プロジェクトをすすめていただきたいです。
- 要望等ではないですが、阿波市においても様々な課題がある。今後その課題等をクリアする手法として、大学を含む様々な団体とどう連携していくか(ノウハウ等)を確率していかなければならない。
- 地域連携で大学と一緒に何かできればと思います。

関心を持たれているテーマ・地域課題があれば、お書き下さい。

- 県南の食材発掘と郷土料理の取り組みを考えているが地域の理解と協力をどのようにもとめていくのか。
- 地域活動の核となる新しいコミュニティの形成(現在市役所でコミュニティ担当のため)
- 林業再生→地域の雇用→住民の定着→活性化
- ゆずの6次産業化、生産から加工、販売まで

※アンケート回答者の文言をそのまま記載

平成22年度 徳島大学地域交流シンポジウム(第8回)

—スポーツから体へ 体から脳へ—
脳科学・スポーツ科学と地域が連携する子育てへ

開催主旨

子どもを取り巻く環境は多くの問題を抱えています。そのことが体力や学力の低下にもつながっており、わが国の将来に関わる大きな問題として受け止めなければなりません。子どもは遊びの中で多くのことを学び、体と心、そして脳を発達させます。それを活かすのがスポーツです。スポーツの経験や科学から得られる成果は、スポーツ以外にも活かせる多くの教訓に満ちています。行政や学校教育現場の努力だけではなく、子ども達が多くの時間を過ごす家庭や地域での生活の中の様々な配慮と工夫によっても、健

やかな成長を促すことができるでしょう。今回のシンポジウムは、①トップアスリートが学んだスポーツ界における経験と世界の子ども達のスポーツ実践、②地域スポーツにおける子どもの現状、③脳科学・スポーツ科学からみた子どもの成長に及ぼすスポーツ・運動の効果、④地域行政における子どもの健全育成の課題などを焦点に、今後の徳島大学と地域との連携の在り方について議論します。



プログラム(敬称略)

日時: 平成22年10月11日(月・祝)

14:00~17:00

場所: 徳島大学工学部創成学習スタジオ

主催: 徳島大学

共催: 社団法人国立大学協会、
徳島地域連協議会

後援: 徳島県、徳島県市長会、徳島県町村会、
徳島県医師会、徳島市医師会、
(社)徳島新聞社、四国放送(株)、
NHK徳島放送局

総合司会:

徳島大学地域連携推進室長
山中 英生

開会挨拶:

徳島大学学長 香川 征

基調講演:

「子ども達に伝えたいアスリートの心」
大阪ガス・北京オリンピック銅メダリスト
朝原 宣治

パネルディスカッション:

「子ども・スポーツ・地域社会」

進行: 清家 輝文(ブックハウス編集長)

パネリスト:

朝原 宣治
(大阪ガス、北京オリンピック銅メダリスト)

大西 真知子
(徳島県スポーツ少年団指導者協議会・
運営委員長)

大竹 美佐子
(徳島県保健福祉部こども未来課・課長)

荒木 秀夫
(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・
サイエンス研究部・教授、スポーツと脳科学)

閉会挨拶:

徳島大学副学長 五十嵐義明

概要

本シンポジウムは、本学が地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として実施しているもので、今年度は第8回目となり、約130人の参加者がありました。

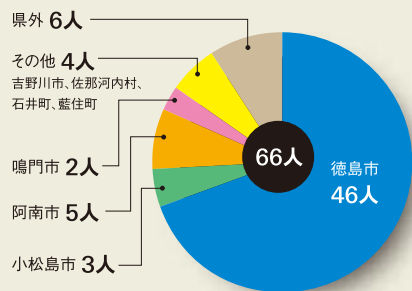
まず基調講演においては、朝原氏から、「子ども達には、体を鍛えること、技術を向上させることだけでなく、自主的に考えて取り組むことで「感性」「感覚」を高めてほしい」と講演されました。「子ども・スポーツ・地域社会」をテーマにしたパネルディスカッションでは、清家氏を進行役に、子どもの発育・発達、家庭環境や、広く地域社会のなかで、体・心・脳が相互に関連していることについて意見が交わされました。また参加者からの活発な質問があり「スポーツと体、脳」についての認識を高めました。



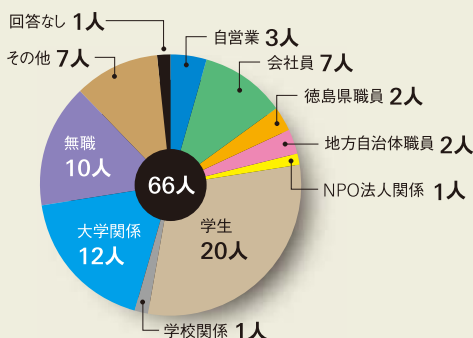
スポーツから体へ 体から脳へ 脳科学・スポーツ科学と地域が連携する子育てへ アンケート集計結果

【アンケート実施日・場所】 平成22年10月11日 徳島大学工学部創成学習スタジオ 【回答者数】 66名

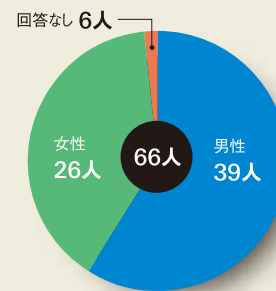
貴方の住所をお答え下さい。
(職場からお越しの場合は職場の住所)



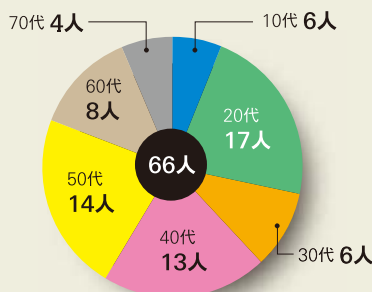
貴方の職業をお答え下さい。



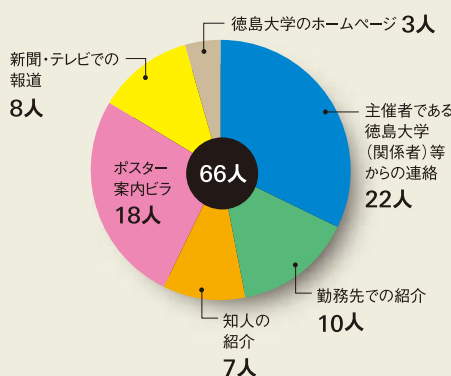
性別をお答え下さい。



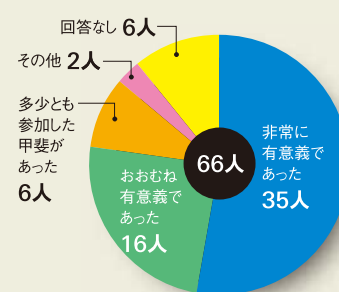
貴方の年齢をお答え下さい。



シンポジウムの開催をどのようにお知りになりましたか



シンポジウムの内容は有意義なものでしたか



シンポジウムの内容で関心を持たれた点をお書き下さい。

- 子どもたちが工夫して色々な人と遊んでいない。
- 朝原さんが社会全体で子どもを育てる為に、NOBY T&F CLUBをたちあげていることにとっても関心を持ちました。自然と楽しくスポーツすることができるように徳島県でもこの考えを広めてほしいと思いました。
- 三好市でのスポーツ少年団の取り組みで、高校生が小学生にかかわっている場面を知ったところ。
- 脳の働き
- スポーツと脳の働きについて
- パネルディスカッションでの清家氏の司会ぶり。(落ち着いていて安心感を与える)
- トップアスリートの生の声を聞けてよかった。(運動のエリート)
- 朝原さんの講演で、いろんなことをやってきた中でオリンピック選手がでてくる。自立して自分をコーチングすることが必要だと言われた。これはどの分野でも1位を目指す子には必要である。
- 根性を持ちながら自由な発想をする。
- 脳だけではなく、全身で情報処理をおこなっているという考え方。
- 荒木先生の小さい子どもとのコミュニケーションはジェスチャーの仕方が大切だという言葉に感じさせられた。
- トップアスリートの朝原氏を呼んでいただきありがとうございます。
- こういう機会を与えていただいたことを感謝します。
- 子育てが終わろうとしている自分であるが、スポーツを通してどう子どもとむきあっていけばよいか、また、スポーツだけでなく、育児の根本的な事を考えさせる機会となった。・・・など

シンポジウムあるいは徳島大学に対して、要望やご意見があればお書き下さい。

- 一般の者も参加できる今日のような講演会など開いて下さい。
- 知の創造・発信・機関として徳島県をリードして欲しい。
- 地域への貢献度は年々大きくなっていると思います。音楽的分野への貢献も増やして欲しいです。
- スポーツ少年団等の指導者、教育者に対してもっと宣伝して参加してもらったら、もっと良かったと思います。
- トップアスリートの悩みや工夫、失敗談をもっと掘り下げて聞かせてほしい。
- 老人の活力を生かす活動などをテーマに、障害を持った老人達の様々な「生きがい」などを紹介しながら、元気をみんなでわかちあえるようなシンポジウムをお願いしたい。
- 一般でもコーディネーショントレーニングの研究に参加出来ればいいですね。
- 広く、私達地域のものに、参加を呼びかけて下さるシンポジウムを進めて下さい。
- 今後ともシンポジウムの開催についてのPRにも力を入れてもらいたい。
- 少し時間が長かったとは思いました。
- もう少し大きく宣伝しても良かったのではないのでしょうか?
- 徳島大学に対して、蔵本地区の駐輪場・樹木を多くして頂きたい。
- マイクのスイッチは操作できないのでしょうか。発言者以外の咳などが入って良くなかったと思います。
- 今後ともこのような機会を与えてほしい。
- もっと時間を長くしてほしい・・・など

※アンケート回答者の文言をそのまま記載